第１回 知多市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

日　　時：平成31年１月23日（水）午前10時00分～午前11時30分

場　　所：知多市役所　３階　協議会室

出 席 者（委員）：８名

（事務局）：７名

議事内容

１．開会

２．委員紹介

３．委員長の選出及び副委員長の指名

４．都市計画マスタープランについて

（１）策定方針

（２）現況データ等の整理

（３）都市づくりの課題の検討

５．その他

６．閉会

＜主な意見(順不同)＞

（１）策定方針

質疑応答なし

（２）現況データ等の整理について

■第１章

委　員：　通勤通学流動について、P54では全て夜間人口で整理されているが、知多市は昼夜間人口比率が低く、県内でも最低の水準にあるので昼間人口も含めて整理すべきだと思う。名古屋市は今後、自然減・社会増であるので、名古屋市からの人口流入は限定的と考えられる。

事務局：　いただいたご意見をしっかりと整理して、次回の策定委員会でご報告させていただきます。

委　員：　年齢別の人口推移について、老年人口が65歳以上となっているが、75歳以上でも把握すべきだと思う。例えばP30の高齢者福祉施設にも影響があると思う。

事務局：　整理して次回報告する。

委　員：　知多市は市街地がバラバラで、常滑線、河和線沿いでそれぞれの地域になっている。出かけるにしても各々バラバラで、いろんなところに出かけている。パーソントリップ調査を見れば、確かに一定の結果になってはいるが、利用する駅や買い物先など、交通流動のところは、もっと広い範囲で捉えるべき

だと思う。

事務局：　知多市はもともと３つの地区が合併しており、それぞれの核がありそれぞれに施設があるため分散しているため、そこら辺を更に分析・整理していきたい。

委　員：　大型商業施設は自家用車で行くことが多いが、P34では800ｍでカバー率が出ている。住んでいる人がどこへ買い物に行くのかが大事であって、どうカバーするという施策は適当ではない。道路を整備して便利に買い物に行けるという指標でないと意味がない。徒歩で買い物に行く人はいない。

委　員：　もし車を運転できなくなれば、電車やバスなどの公共交通機関で買い物などに行かなければならない。そのため、徒歩圏内に駅やバス停などがあるかという指標は必要だと思う。

事務局：　車と商業施設との関係については整理したい。800ｍの徒歩圏については、歩いて暮らせるまちづくりという点が出てくるので、整理は必要だと考えている。

委　員：　人口推移において、知多市は持ち家率が高いものの、賃貸に住む人で、途中で他市に出ていってしまう人もいる。賃貸暮らしの世帯についても、把握が必要ではないかと思う。

委　員：　P3の人口動態について、平成28年に社会増が出ているが、その原因は何か。

事務局：　数値のみでまだ分かっていないので分析したい。

委　員：　私は外国人が増えているのではと思っている。

委　員：　P63に建築物の老朽化について載っているが、空き家についてはどうか。老朽化の原因に空き家ということがあるかもしれない。同じ老朽建物でも、人が住んでいればまだなんとかなるが、空き家ともなると厄介なことになる。

事務局：　空き家については現況調査を行っており、来年から計画策定を予定している。そうなったら詳細な報告が出来ると思う。

委　員：　市内で空き家は500軒ほどある。その中で特定空き家に近いものが70軒ほどある。全体では1.1％くらいで推移している。今後どうするか考えたい。

■第２章、第３章

委　員：　市民ニーズは主観的なことが多いので、クロス集計にして年齢性別属性で把握できると、今後どの層をターゲットにして満足度を追及するかが明確にできると思う。自然環境については高評価だというものの、実態は耕作放棄地が増えていたり、山林にも竹が繁殖している状況であるが、これから10年後に向け、これをどう維持していくのか。高齢者は、自然や緑と言えば昔の里山を思うかもかもしれないが、若い人たちは、夜の帰宅時など怖いというイメージもあるように思う。駅周辺については、鉄道が南北方向しかなく、バス路線も充実していない中で、駅前に誰が買い物に行くのか疑問がある。また、名古屋などから夜に帰宅するときなど、バスもなく、駅にタクシーもなく、家族に迎えに来てもらわないと帰宅も不便である。この点が充実していない中では、駅周辺の商業機能などについてアンケートをしても偏りがあると思う。

事務局：　クロス集計については、年齢と地域別で表している。農地緑地の問題についてはその通りで、担い手確保の動きもあるが、人口減少の中でだんだん難しくなるかもしれない。緑が多いことへの高評価については、なんとなく緑が多くて、その風景が好きであるということであり、またそれが今後も維持されて欲しいという結果だと考えている。

事務局：　竹藪は山林になるが、見た目は緑豊かに見えるが、実際には竹しか無く、土地が荒れているのが現状である。バスについては、本来はコンパクトシティ化の流れに沿って充実させていくべきだが、知多市は３地区合併という経緯もあるので、その中でネットワークを検討していきたい。

委　員：　人口ビジョンでは2060年に７万人確保するとある。今後外国人が増加し、その居住によっては人口の社会増につながる可能性がある。そのような変化に応じて、この計画の見直しはあるのか。国の政策に左右されるものではあるが、人口ビジョンは基本的な数値なので、精査をすべきだ。

事務局：　この人口ビジョンは、策定が少し前ではあるが、総合計画でも使っているので、その整合を取っていくことになる。

委　員：　上位関連計画との整合性が必要となるため、内部で要調整して欲しい。

委　員：　項目の中に、複数回答のものもあるが、その割合を示されたとき、母数が何であるかが分かりづらい。

事務局：　その通りなので整理したい

■都市づくりの課題の検討について

委　員：　P101⑤の【強み】２つ目、新舞子マリンパークの入り込み客数について、増えた要因は、海釣り公園をマリンパークに移したことと、花火大会を再開したことによる。一方で海水浴客は、内海などの他地区も含めて減少している。これら海水浴客以外による客数増加であり、今後も持続するとは言い切れない。そのようなことを強みに入れるのはどうかと思う。

事務局：　花火大会については、確かにそのように認識している。

委　員：　これについては、過去からあるものが評価されて増えているのか、中身が変わったことで増えているのかなど、そのあたりを精査してもらえればと思う。

委　員：　P99の集約型都市構造については、重要ではあるが、知多市の土地利用などからすると、生活拠点という点も重要で、単に駅を拠点とするだけでなく、知多市版の集約型都市構造ということを考えるとよい。商店なども、生活拠点的なところでがんばっているので。そこで、移動しやすい交通として、駅と生活拠点と、それぞれを中心とする都市拠点があるわけなので、それらを結ぶようなネットワークを考えるべきで、それも知多市版の考えになるはず。P101にある西知多道路の整備については、これを最大限に活かしてもらえるとよい。空港と繋ぐものでもあり、自動車交通の円滑化、またまちづくりのために、しっかりと議論して位置づけていただきたい。

事務局：　駅を中心とした集約型という点と、従来の生活拠点、また内陸部の区画整理区域などの特色づけについて議論していきたい。交通については、バス利用者が少ない中で、コンパクトな都市づくりのネット

ワークのあり方が課題と考えている。西知多道路については、工業団地の整備を積極的に進めており、企業からの引き合いも多くある。金沢地区では、金沢IC付近に観光施設の整備を検討している。

委　員：　P99集約型都市構造の【強み】３つ目は、強みなのか。核家族化について、かつての様相と違って、今は夫婦いずれかが亡くなったあとの単身世帯が増えている。これは弱みにあたるのではないか。新しい人達が社会増になってくれる時代ではないと思う。

委　員：　単身世帯の増加により地域コミュニティが成り立たなくなり、地域の担い手が減っていることを検討して欲しい。

事務局：　検討する。

委　員：　転入の理由について、例えば母子家庭の場合だと、知多市は家賃が安く、保育園に入りやすいということが聞かれるので、低所得の人が転入しやすいのではないか。世帯の増加については、このような点も見逃せないと思う。

委　員：　P100【市民ニーズ】において、買い物についての満足度が低くなっているが、これは、コンビニについても考慮に入れるとよいのではないか。昨今のコンビニは単身者や高齢者向けの売り方が充実しているので、コンビニの軒数なども、どれほどなのかと考えている。

委　員：　P99【都市づくりの課題】２つ目、「朝倉駅周辺等の商業地におけるにぎわいの創出」とあるが、これは、駅周辺のにぎわい創出という意味なのか、商業地の、という意味なのか、どちらなのか確認したい。

事務局：　書かれてある通り、商業地のにぎわい、という意味である。

委　員：　今回出た意見については、議事録にとどめておくのはもちろんのこと、別途リスト化して参照しやすくし、今後に活用して欲しい。

以上